

中野区教育委員会会議録

令和6年第16回定例会

令和6年5月31日

中野区教育委員会

令和6年第16回中野区教育委員会定例会

○日時

令和6年5月31日（金曜日）

開会 午前10時00分

閉会 午前11時16分

○場所

啓明小学校 ランチルーム

○出席委員

教育委員会委員 平本 紋子

教育委員会委員 伊藤 亜矢子

教育委員会委員 岡本 淳之

教育委員会委員 村杉 寛子

○欠席委員

教育委員会教育長 田代 雅規

○出席職員

教育委員会事務局次長 石崎 公一

参事（子ども家庭支援担当） 森 克久

子ども・教育政策課長、学校再編・地域連携担当課長

渡邊 健治

指導室長 井元 章二

学務課長 佐藤 貴之

子ども教育施設課長 藤永 益次

啓明小学校校長 遠藤 純子

明和中学校統括校長 熊谷 恵子

○書記

教育委員会係長 藤井 玉枝

教育委員会係 伊藤 芽依

○会議録署名委員

教育委員会教育長職務代理者 平本 紋子

教育委員会委員 岡本 淳之

○傍聴者数

13人

○議事日程

1 協議事項

(1) 読書活動について

○議事経過

午前 10 時 00 分開会

平本教育長職務代理者

おはようございます。開会前ですが、本日所用により、田代教育長が委員会を欠席いたします。本日の会議については、私が教育長職務代理者として進行を行いますので、よろしくお願いいたします。

定足数に達しましたので、教育委員会第 16 回定例会を開会いたします。

なお、本日は地域での教育委員会として開催するものです。中野区において、開かれた教育行政を一層推進するために、区役所以外の場所に会場を移して開催しているもので、今回で 43 回目の開催となります。

会議の進行につきましては、通常の教育委員会と同じように進めてまいります。

ここで傍聴の許可について、お諮りいたします。

教育委員会の会議における傍聴人の数については、中野区教育委員会傍聴規則第 3 条により、20 人以内と定められております。本日は、傍聴を希望される方が 20 人を超えてお見えになる場合があるかと思っておりますので、同規則第 3 条ただし書の規定により、20 人を超えて傍聴することを認めたいと思っておりますが、ご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

平本教育長職務代理者

ご異議ありませんので、20 人を超えて会議を傍聴することを認めることに決定いたしました。

続きまして、ここでお諮りをいたします。

本日は、株式会社ジェイコム東京から、取材のため教育委員会の会議を撮影したい旨の申し出がありました。

会場を撮影する場合には、教育委員会の承認を受ける必要がございます。

これを承認したいと思っておりますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

平本教育長職務代理者

ご異議ございませんので、会議の撮影を承認することに決定しました。

なお、撮影に当たりましては、会議に差し支えないように行っていただきますよう、お願いいたします。また、傍聴の方を撮影される場合には、個別に了解を得てから行っていただ

けますよう、お願いいたします。

では、冒頭でもご説明いたしましたが、本日は地域での教育委員会として、協議事項を「読書活動について」とし、テーマに関連して、小中学校の校長先生にお話を伺う予定でございます。

また、協議事項の終了後、会議を一旦休憩し、協議テーマ、その他教育に関して、傍聴の方々のご意見をいただく時間を設けたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります。

本日の会議録署名委員は、岡本委員にお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりです。

<協議事項>

平本教育長職務代理者

それでは、協議事項「読書活動について」を協議いたします。

初めに、指導室長から区の実情についてお話をいただき、その後、小中学校の校長先生から取組等を紹介していただいた後、教育委員の先生方からご意見を伺い、協議を進めていきたいと思っております。

それでは、初めに、事務局から説明をお願いいたします。

指導室長

それでは、私からは本日の協議テーマである「読書活動について」ご説明いたします。

読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で、欠くことができないものです。中野区教育委員会では、第4次教育ビジョンにおいて、読書に関わる計画を位置づけまして、子どもたちの読書活動を充実させる取組を進めることとしております。

第1に「確かな学力の定着」を目指す取組の一つとして、主体的な読書活動を推進すること、第2に「子ども読書環境の充実」を目指す取組として、子どもたちにとって身近な図書館となるよう工夫していくことを進めております。

第1の主体的な読書活動の推進につきましては、「中野区の100冊」や、学習や行事に関連する本、またこちらの写真にありますように、図書委員会など子どもたちが選んだ本や漫画などの蔵書を充実させたり、お薦めの本のコーナーをつくり平置きにしたり、ポップや本の帯をつけたりするなどの図書室の環境整備を行うなどして、学校図書館に来た児童・生徒が、読書に対する意欲を高められるようにするとともに、調べ学習等での探究活動に

活用しやすいようにしております。

第2の児童・生徒にとって身近な図書館となる工夫では、休み時間や放課後、また長期休業中に学校図書館を開館して、児童・生徒が本を読んだり、タブレット端末等を使って自習をしたり、友達と会話したりしながら、自由に過ごせる居場所として活用できるようにしております。

これらの取組を円滑に進めていくために、教育委員会では、学校図書館を運営するスタッフとして、各校に学校図書館指導員を配置しております。

学校図書館指導員につきましては、業務委託により各校1名配置してありまして、月曜日から金曜日までの1日6時間勤務することとしております。

業務内容としましては、蔵書の管理、図書室の環境整備、図書等の貸出し及び返却対応、本のレファレンス、休み時間・放課後及び長期休業期間における開放業務としております。各学校には、この学校図書館指導員を効果的に活用して、児童・生徒の読書活動を充実させるようお願いしているところでございます。

また、今年度の新たな取組といたしまして、ICTを効果的に利活用していくという取組を、小学校のほうで幾つか始めております。

第1に「S a g a s o k k a !」というアプリを児童のタブレット端末に導入いたしまして、百科事典の『ポプラディア』のデジタル版を見られるようにしております。

こちらは、児童が適切な情報へアクセスする環境を整備し、社会科や理科及び総合的な学習を初めとする様々な教科での活用を進めていくというものでございます。1人1台のタブレット端末を導入しておりますので、児童・生徒の興味・関心等に応じて、いつでも、どこでも、誰とでも活用することができます。各学校には、児童・生徒の探究心に基づいた学習等に、効果的に活用してもらいたいと考えております。

続きまして、第2に「Y o m o k k a !」というアプリを児童のタブレット端末に導入いたしまして、約4,200冊の電子書籍を閲覧できるようにしております。

朝読書や休み時間、少しの隙間時間でも活用できますし、また同時に複数の児童が閲覧できるので、ペア読書やグループ読書なども気軽にできるものとなっております。各学校においては、児童・生徒の幅広い興味・関心に応じて、主体的な読書活動を促進してもらいたいと考えております。

このような取組を通しまして、中野区教育委員会では、子どもたちが主体的に本に関わるような資質・能力を育成したいと考えてございます。

私からの説明は以上でございます。

平本教育長職務代理者

続きまして、本日の会場である啓明小学校の遠藤校長からお話を伺いたいと思います。
遠藤校長、よろしくお願いいたします。

啓明小学校校長

啓明小学校校長、遠藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、パワーポイントで画像を映しながら進めさせていただきます。今、画像が映っているところでございますけれども、本校の書架なのですが、右下隅のところ、男の子が1人座っています。こちらは夏休み中の図書館開放に来ていた1年生の男の子が、自分の好きな本を選んで、その場に座り込んで本を読んでいるところです。この男の子は3年生にお姉さんがいて、お姉さんと一緒に毎日学校図書館に通ってきていました。

本校の図書館は「ぐりぐら図書館」と名前がついております。平成9年度に中野区の教育活動推進事業として、特別教室と2部屋分と廊下を合わせた大変広い図書館となりました。

名前なのですが、絵本で『ぐりとぐら』ってありますね。その『ぐりとぐら』の作者の中川李枝子さんから、この「ぐりぐらの名前を使ってもよいですよ」という許可をいただいて、現在「ぐりぐら図書館」と呼んでおります。

次の画像なのですが、今日皆さんにお入りいただいた中央玄関の真正面が本校のPRしたいものを貼っている場所なのですが、今日はこいのぼりが飾ってあったと思います。あちらは、中野駅北口のサンモールに、保幼それから小学生がつくったこいのぼりをゴールデンウイークまでの間飾っていただいたのですが、そちらの現物が置いてございます。

その掲示板、この後の画像なのですが、こちらのような掲示に変わる予定です。「ぐりぐら図書館夏まつり」と言いまして、今年度は7月13日の土曜日、学校公開日に行く予定です。この日には、ペア学年と言うのですが、1年生と6年生のペア、2年生と4年生のペア、3年生と5年生のペア、それぞれ組んで、読書交流会を行います。

こちらは、昨年度の様子です。3年生以上の児童が読み聞かせなどを行いました。読み聞かせのほかにも、紙芝居を選んだ子たち、人形劇を選んだ子たち、そして5年生はそれでは物足りないといって、自分たちが本の中の登場人物になりたいといって、教室で劇を発表しています。

こちらの画像は、図書館の「おはなしひろば」という、本校は図書館の手前半分のスペー

スに靴を脱いで上がれるような、小上がりのようなスペースがあるのですが、その「おはなしひろば」で、大きな絵本というのがあります。こちらの読み聞かせをしている様子です。

次に、委員会活動について、ご説明させていただきます。

小学校の委員会活動は、特別活動の中の児童会活動の一つです。自分たちの学校生活を向上させるために、自分たちで自発的に、自主的に活動を行っているものです。全部で八つの委員会がありますが、図書委員会は、現在6年生が10名、5年生8名、合計18名で活動しています。

主な活動ですけれども、画面にもありますが、まず本の貸出しや紹介ですね。あと図書館の整理も行っています。そして読書週間がございますので、そちらの企画や運営も行っています。

ちなみに、今ごらんいただいている画像なのですが、図書館のカウンターの上の様子です。これは、図書委員の子どもたちがお薦めしたい本、ここではあやとりの本を面白いから紹介したいということで置いてあるのですが、置いておくだけではつまらないから、じゃあ、あやとりを用意して、これをみんなに遊んでもらおうとって、ひもも三つ置いてあるところです。

同じく図書委員会の活動の中で、読書週間がございます。6月と10月、年2回あるのですが、こちらの画像は、昨年の6月の読書週間の様子です。「おはなしひろば」のところで、6年生の図書委員が、1年生の子どもたちを対象にして『はらぺこあおむし』の読み聞かせを行っています。ほかにも、朝読書の時間には、図書委員の子どもたちが1・2年生の教室に行って、読み聞かせを行っています。後期、10月の読書週間のときは、本の読み聞かせではなくて、ペープサートを行っています。

ここまですっと読み聞かせばかりなのですが、次、3年生の国語の授業でのことをお話しさせていただきます。

「ぐりぐら図書館夏まつり」や読書週間で行われている読み聞かせがどんどん広がっていったのです。3年生の国語の「話す・伝える」の授業で、「1年生に本を読んであげるなら、どうやって工夫したらいいでしょう」と考えたのです。そうしたら、子どもたちから、「実際にやってみたほうがいい」という声上がり、3年生が全員で1年生の教室に行きました。3年生は班ごとにそれぞれ自分たちの本を選んで、1年生に読み聞かせを行った、この画像がそのときの様子です。さすがに5年生や6年生のように流暢にはいきませ

んが、一所懸命やっているところです。

こちらの画像は、2月の幼稚園・保育園交流の場での読み聞かせの様子です。本校は、この学区域のやはた幼稚園、大和東もみじの森保育園、野方保育園などの、多くのお子さんが本校に入学してくる幼稚園・保育園なのですけれども、その年長児をお迎えしています。

この画像は、実際に1年生が小学校での生活を、園児たちに紹介したいというものです。1年生は12のグループに分かれて、園児をおもてなしました。それぞれの班は、自分たちでやりたいことを決めるのですけれども、iPadの使い方を教える班、ランドセルやお道具箱の片づけ方を教える班、お絵描きをする班、平仮名を教える班などもありましたけれども、その中に絵本の読み聞かせをする班があったのですね。この画像がその様子です。普段1年生は読んでもらう立場の一番小さい学年なのですけれども、幼稚園・保育園の子たちが来てくれたということで、このときはちょっとだけお兄さん、お姉さんとして、読み聞かせを頑張っていました。

次に、家庭読書について、お話しさせていただきます。

啓明小学校では、夏休みに親子で読書をする取組というのを行っています。児童が本を選んで、その本の中で気に入った場面、あるいは登場人物などの絵を描くのですね。さらに、その本を読んだ感想も、こちらの画面にありますカードの中に書いて、そして家の人に渡します。夏休みの間に、今度は保護者の方にも同じ本を読んでいただいて、保護者の方の感想を書いてもらっています。こちら、今見えているのは、1・2年生用の家庭読書カード、これ以外にも3年生から6年生は高学年用のカードを使っています。本を通した親子コミュニケーションがこの取組の目的です。

次に、これは「読書の木」といいます。1階の放送室前の廊下にあるのですけれども、「ぐりぐら図書館」の本に親しむのは子どもたちだけではなく、本校の職員も「ぐりぐら図書館」の蔵書の中から、それぞれ児童に薦めたいなという本を1冊選んで、紹介をしています。

本の名前と、それから紹介する絵ですね。あと紹介文をB4サイズの紙に書いて、放送室前の廊下に、木のようにくっつけて、貼っております。子どもたち、ここはよく通る場所なので、先生たちがどんな本が好きなのかなというのを見てくれています。教員のいろんな好みというのですかね。それがとてもあらわれていると思います。

次に、こちらの画像です。読書感想文について、お話しさせていただきます。

啓明小学校では、夏休みは感想文を書く本を選ぶのが課題です。夏休み中に書くという

わけではないのです。選んだ本について、夏休み明けの授業、国語の授業の中で、2年生から6年生は読書感想文、そして1年生は空想画、感想画ですけれども、それに授業の中で取り組んでいます。

こちらの画像は、読書感想文コンクール課題図書コーナーとあって、毎年推薦図書があるのですけれども、学校で用意したものを、このようにまとめて展示しています。

本を選ぶとき、先ほどの推薦図書、課題図書もあるのですけれども、それ以外にもおすすめ本というのがあります。中野区小学校教育研究会の学校図書館研究部というのがあるのですけれども、これは小教研という教員の自主的な研究会、勉強の場です。図書館研究部では、長期休業前、夏休み、冬休み、春休み、この三つのお休みの前に、低学年・中学年・高学年それぞれ20冊ずつ、中野区立図書館の方があらかじめ選書してくださっている中から「今年はこちらをお薦めしよう」ということで選んでいます。そのリストをつくり、夏休みの間、子どもたちが本を探しに来たときのヒントになるようにと置いてあるところです。

読書感想文コンクール・感想画コンクールの中で、これはすばらしいというものについては、代表作品として「わたしたちの読書記録」というのを小教研で作成しておりますので、こういう冊子をつくっております。

先ほど説明がありました学校図書館指導員なのですけれども、これも私たちにとって非常に大切な存在です。もちろん図書館の整理や選書、蔵書整理はもちろんなのですが、昨年度から中野区内の小中学校では、長期休業中に、学校図書館指導員がついて、毎日開館しています。ですから、図書館が長期休業中の子どもの居場所となっています。先ほど、一番最初の画像にありました1年生の男の子が座り込んで本を読んでいたシーンは、夏休みの1こまだったのですけれども、中野区内の公立学校には「中野の100冊」というて、子どもたちに読ませたい本が、どの学校にも置いてあります。もちろん小学校用は本校にあるのですけれども、中学生用の「中野の100冊」も一部置いております。これは本校の図書館指導員が、高学年の児童がもっと難しい本を読みたいというチャレンジの気持ち、あるいは子どもたちの中には、ある分野がとっても好きで興味があつて、そういうことについてもっと深く知りたいという要望があつて、そういう願いに応えるために、図書館指導員が中学生用の図書を集めてきて、今「ぐりぐら図書館」に置いております。

この画像は、「季節のおすすめ本」を紹介しているところで、その季節、季節に応じた本を「ぐりぐら図書館」の中から、子どもたちが手にとりやすいように紹介しています。これはハロウィーンの頃なのですけれども、お化けの話とか、そういう絵本などを中心に置い

てあります。このように魅力のある図書館をつくっていくためには、この学校図書館指導員の存在が欠かせません。

こちら啓明小学校の読書活動をまとめたものです。今年度、明和中学校区コミュニティ・スクールの地域コーディネーターで、実は今日傍聴されている中にいらっしゃる方からご紹介いただいたのですけれども……。

(校内放送～休み時間に雨で校庭が使えないことのお知らせ～)

啓明小学校校長

これが小学校のリアルです。恐らく子どもたちは、今の放送で、「今日は外で遊べないから」と、図書館に行っていると思います。

先ほどご紹介させていただいた方から、地域の読み聞かせボランティア大和朗読の会をご紹介いただきました。そのボランティアの皆さんのご協力によって、今年度6月から「ぐりぐら図書館」で読み聞かせ、あるいは大きな紙芝居、すごく大きいのですけれども、そちらを本校で行っていただけることになりました。

早速2年生は6月20日に実施します。1組も2組もじっくり読み聞かせをお願いしたいということで、最初は中休みに学年全部でという計画をしていたのですけれども、いえいえ、1時間ずつ国語の授業で聞かせてほしいということで、6月20日を楽しみにしているところです。

本校の読書活動について、一つずつ取り上げてきましたけれども、こちらの画像のとおり、本当に読書活動には様々な人による、様々なアプローチが欠かせません。子どもたちは本当に多くの大人に見守られ、支えられて、成長していています。これは読書活動も同じです。子どもたちの豊かな成長を願う教育活動の一つとして、これからも啓明小学校では読書活動を積極的に進めてまいります。

以上で、啓明小学校の読書活動についての説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

平本教育長職務代理者

遠藤校長、ありがとうございました。

続きまして、明和中学校の熊谷統括校長からお話を伺いたと思います。熊谷統括校長、よろしく願いいたします。

明和中学校統括校長

明和中学校統括校長、熊谷恵子と申します。よろしく願いいたします。

それでは、明和中学校の読書活動について、説明いたします。

まず「明和中生、読書は好きですか。」という調査なのですけれども、これは本年度卒業しました令和5年度全国学力・学習状況調査（生徒質問紙）の結果から、今年卒業した生徒が4月に行った調査結果なのですけれども、一番上が明和中生なのですが、「読書が好き」、どちらかといえば当てはまると肯定的な回答をした明和中生、3年生は70.9%でした。それに対しまして、東京都で肯定的な回答をしたのが64.7%、全国では66.6%の3年生が「読書が好き」と回答しています。こう見ますと、明和中生に「読書が好き」と回答した生徒が多くなっていることがわかるかと思えます。

続きまして、学校の授業時間以外に、普段（月曜から金曜）、1日当たりどれぐらいの時間読書をしますかという、同じ令和5年度の全国学力・学習状況調査の結果ですが、見ていただきますと、明和中生は30分以上1時間より少ないと回答した生徒が35.1%でした。反対に全くしないと回答した生徒が24.3%、東京都では全くしないと回答した生徒が33.2%、全国では36.8%ということで、全くしないという回答が、それでも24%と、多いなと思うのですけれども、全国や東京都に比べると少ない結果になっています。

また、30分以上1時間より少ないという3年生が35.1%だったことから、放課後何らかの時間を編み出して、読書に親しんでいたのだなということが見受けられるかと思えます。

そうした中で、本校では読書活動の工夫としまして、教育課程上に朝読書を位置づけています。月曜日は朝礼がありますので、火曜日から金曜日の午前8時25分から午前8時35分までの10分間です。この朝読書を行うことによって、落ち着いて読書をする習慣の定着や、生涯にわたる読書生活の基盤づくりとなっていると感じています。

さて、「明和の学校図書館によろこそ！」と題しましたけれども、明和中学校の図書館前の廊下の様子です。図書委員会による「めいわのめいちゃんクイズ」が張ってあります。この「めいわのめいちゃん」とは何者かというところなのですけれども、ここにあるように、ウサギの「めいわのめいちゃん」、学校図書館のキャラクターになっています。「めいわのめいちゃん」ですけれども、子どもたち・先生たちからキャラクターを募集しまして、実はこのキャラクターは、投票の結果、本校の保健体育科の教員が描いたものが選ばれたということになっています。

続いて、「めいわのめいちゃん」のスタンプラリーカードというものがあります。これも図書委員会が考えたものなのですけれども、「中野の100冊」に加えて、「明和の100冊」を選定しています。こちらのように、「中野の100冊」コーナーもあるのですが、「明和の

100冊」コーナーもございます。「ステップ1」と書かれているのですが、この図書の選定をするのに、非常に時間がかかります。人権上問題ないかといったようなことも鑑みながら選定していきますので、現段階では「ステップ1」30冊を選定したところです。実際に一昨年度選定しまして、昨年度から子どもたちがこのスタンプラリーカードを使って、読み深めていっているところです。

では、具体的に「明和の100冊」にはどのような本があるのかということで、先ほどお話ししたように「ステップ1」には30冊ございますけれども、このような本が選ばれています。子どもたちから人気があった本もあるのですけれども、教職員がこれは子どもたちに読ませたい。また「中野の100冊」には入っていないのだけれども、これも加えたい。そういう思いを込めて入れています。また、本校は人権尊重教育推進校でもありましたので、人権に関わる本も入れています。また『老人と海』のように、現代の子どもはなかなか読まないような、歯ごたえのあるような名作も入れるようにしています。その一方で、『にゃんこ四字熟語辞典』のように、猫の写真と一緒に、それに関わるような四字熟語を示すことで、楽しみながら四字熟語を覚えられるようなものも入れています。現段階で「ステップ2」の選定に入っているところなのですけれども、『窓ぎわのトットちゃん』の続編である『続 窓ぎわのトットちゃん』を入れたところです。

続いて、読書活動の工夫その3です。本校の特色ある教育活動と関連づけた学校図書館づくりを行っています。本校は、先ほど申し上げたように、令和4年度・5年度東京都教育委員会の人権尊重教育推進校でしたので、人権教育に関わる本をしっかりと置きたいという思いがありました。ただ、このコーナーは、子どもたちから「ぜひこれをつくろう」ということで、図書委員会が中心となって、人権課題別に分類したコーナーをつくったものです。これによって、本校では1年生が人権作文、2年生が社会を明るくする運動の作文コンクールに全員が応募しているのですけれども、特に総合的な学習の時間などを使いながら、ここで自分が学びたい人権課題について、探して調べて、そしてより深めているところです。

そのほか、本校の特色ある教育活動である安全教育、特に防災教育のコーナー、また学校2020レガシー（障害者理解、ボランティア・マインド）の継承ということで、点字つき触る本など、障害者理解につながる本の紹介をしています。これも図書委員会が行っています。

加えて、読書活動の工夫その4ということで、図書委員会とのコラボ給食を実施しています。図書委員会によるアイデアとしまして、小説に登場する料理を給食のメニューに取

り入れてもらうことで、本の内容に興味を持って、そして読んでもらおうとする企画です。昨年度は『ハリー・ポッターと秘密の部屋』から、シェパードパイとスコッチブロス、これを学校栄養士に子どもたちから依頼しまして、工夫しながら給食で提供したところです。

続いて、読書活動の工夫その5です。図書委員会による企画を様々お示ししましたけれども、全校図書企画として「ブックパズルに挑戦しよう！」を行っています。1人1冊読むと、実際に、最終的には右側にあるように、本の表紙が出てくるということで、みんなで読まない、この表紙があらわれないということから、学年全員が一生懸命本を読む習慣ができてきました。

そのほか、「読書の木」、こちらは啓明小学校でも行っていましたが、中学校でも小中連携の一環として「読書の木」を行っています。また、図書委員によるポップづくりも行って、本の紹介もしています。これについても、テーマが決まっています、去年は人権学習・人権教育ということで、ポップをつくっていました。また、「図書委員会新聞」で、お薦め本、新刊本の紹介をしています。

続いて、「新聞を読んでいますか。」、こちらが昨年度の全国学力・学習状況調査の結果なのですが、81.8%の明和中学校の3年生はほとんど、または全く読まないと回答しています。ただ、東京都も全国も似た傾向がありますので、新聞を読まない中学生、大人も最近そうってきているかもしれませんが、非常に多くなっている状況があります。そこで、これからどうしようかということをお考えして、これだということが読書活動の工夫その6です。

本校の学校図書館には、朝日、読売、毎日、東京、産経、日経、6紙の新聞を、毎日このように置いています。学校には毎日、新聞が届いています。「読み比べてみましょう」と右の写真がありますが、比較読みが非常に重要となりますので、国語科の授業、社会科の授業を中心に、比較読みの授業を行っています。それを踏まえて、総合的な学習の時間でも新聞を活用した授業、新聞を活用した取組を行ってきているところです。

結果なのですけれども、来館者数なのですが、令和4年度と令和5年度で比較してみました。2,716人、昨年度は学校図書館の来館者数が増えています。また、貸出冊数ですけれども、1,145冊増えている状況にあります。これについては、なぜなんだろうという非常に簡単で、学校図書館指導員が常駐したこと、そして夏休みに学校図書館が開いていること。冬休みについても、本当に12月27日まで、そして年明けは1月4日から開いている。これが非常に、居場所にもなり、本の貸出冊数も増えた結果になっているかと思っています。

す。

続いて、図書分類別貸出冊数なのですが、令和4年度も令和5年度も比べてみたのですが、やはり文学が圧倒的に多かったです。ただ、4年度と5年度で一番異なるのが、社会科学に関する分野が、令和4年度は3番手だったのですが、そして哲学が4番手。ところが令和5年度は哲学が3番手に上がってきています。

これは何でなのだろうということで、どんな本を借りているのか確認したところ、人権に関する本が非常に増えたのですね。ですので、テーマをもって、学校の経営方針のもと、意識して取り組むことで、また子どもたちと一緒に取り組んでいくことで、こうした図書のジャンルも広がっていくのだなと思っています。今後はより深く、また広くジャンルを広げさせたいと思っています。幅を広くすることで、視野が広がっていくのではないかと考えています。

そして、学校図書館図書標準なのですが、明和中学校は18学級あります。これは特別支援学級4学級も含んでいるのですが、そのためには蔵冊数が1万3,600冊必要です。令和4年度末は1万1,363冊でした。そして令和5年度末が1万1,592冊、229冊増になっているのですが、これは非常に助かったのが、蔵書の充実に伴う図書購入費が各校130万円配当されたということです。これによって、新しい本が購入できたことと、ハードカバーの非常にしっかりした本を、いわゆる文庫本ではなくて、きちんと子どもたちが数年にわたって使えるような本を購入することができた大きな要因になっていますので、この130万円が今年度も配当されているということは、非常に大きいなと思っています。

このように幾つかお話ししてまいりましたけれども、読書活動が充実してきた理由なのですが、大きく4点あるかと思います。

1点目は、本校の「三つの特色ある教育活動」、人権教育の一層の推進、安全教育の推進、学校2020レガシーの継承と関連づけた読書活動の推進が行われてきたこと。また、生徒が主体となった、特に図書委員会による読書活動に関する企画・運営が実施されたこと。何より中野区立学校図書館指導員が常駐していること。そして学校図書館配当予算が充実したこと。これが、読書活動が充実してきた主な要因であると考えております。

これからも明和中学校は小中連携をしながら、読書活動を進めていきたいと考えておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。

平本教育長職務代理者

熊谷統括校長、ありがとうございました。

ただいま、事務局、小中学校と続けて説明をしていただきました。ここで、ただいまの説明や協議テーマに関しまして、教育委員の皆様から、質問や感想なども含めて、ご意見を伺いたいと思います。

ご発言はございますか。

伊藤委員

ご説明ありがとうございました。本当に子どもたちのうきうきした気持ちが伝わってくるようなご発表で楽しくなりました。ありがとうございます。

最後に、熊谷先生がまとめてくださったこと、読書活動が充実してきた理由、本当にそこに尽きるなど私も感じます。学校図書館指導員の方が常駐して下さって本当によかったですし、またそこから地域の朗読の会の方ですとか、いろんな方にもご援助いただけるということで、すばらしいなと思いました。

中学校では、テーマを決めて、人権教育とかそういう教育活動と関連づけて下さっているということがございました。このこともすごく重要だなと思いました。小学校のほうでも、もしかしたら、小学校は本当に人生の基本をつくる場所ですので、啓明小学校の児童の皆さんを先生方がごらんいただく中で、こういったことが課題だなということがあれば、そのことが教育の目標や普段の教育活動全般にも関連すると思いますし、ぜひ図書館、あるいは読書というところにも結びつけていただけると、さらによいのではないかなと思いました。テーマと結びつけて、教育課題と結びつけて、読書活動を展開していくということを、ぜひしていただけるといいなと感じたところです。

それからもう一つ、やはり多様な読みということが大事だなと私は思っていて、多様なというのは、「明和の 100 冊」はとてもいいと思ったのですが、先ほどご紹介ありましたように、四字熟語を覚えるというような実用書もあれば名作もあり、文学の世界を楽しんでいくという時間もあれば、何か調べたいことを調べたり、深めたりということもあると思います。そういういろんな読みができるよ、いろんな目的のために図書館はすごく使える場所だよというところを、小学校・中学校でもしっかりと教えていただけると、その後の自ら探究していく学習にすごく役立つのではないかなと思いました。

ですので、ぜひ人生楽しむ、楽しい時間を過ごすための本とか、知識を広げる本とか、知らない世界を知るための本とか、何かそういういろんな読み、いろんな本があるよという

ことを楽しく子どもが知っていけるような工夫を、これからもしていただけると楽しいなと思いました。

そして、最後に熊谷校長がおっしゃっていた充実の理由の中にもありましたが、図書委員会の活動もすごく大事だと思っています。貸出しとかポップをつくったり、いろいろな工夫をしてくださっていると思うので、ぜひそのことも、小学校でも中学校でも続けていただけると、すごくいいなと思いました。本当に充実した内容で、とてもありがたいと思いましたし、やはり図書費ですとか、様々なバックアップが必要だと思いますので、教育委員会といたしましても、そういったバックアップが今後もできるといいなと思いました。

一つだけ思ったのですけれども、障害者理解とかのところも、もしかしたら障害者理解というよりも、障害の理解かもしれませんし、ボランティアマインドとかも、もう少し子どもの立場に立ったら違った表現とか、小中連携の中でできることもあるかもしれないので、ぜひとも小学校・中学校の連携の中で、一つ一つのテーマをさらに深めるということもしていただけたらうれしいなと思いました。

以上です。

岡本委員

ご説明ありがとうございました。私も本業は出版社で編集の仕事をしておりますので、そういう意味でも、今回のテーマ、読書活動、大いに関心を持ってお話を伺っていただきました。

そもそものところなのですけれど、先ほど指導室長から読書活動の意義についてお話をいただきましたが、遠藤校長、熊谷校長は、読書活動がなぜ大切で、なぜこんなふうに充実を目指されているのか。そこをちょっと、お話をぜひお聞かせいただければと思いました。

啓明小学校校長

なぜ読書活動が必要かということなのですけれど、今、子どもたちの周りには、本当に様々な情報があふれ返っている。それこそ、もうどんどんどんどん入ってくる。小学生ですら、今スマートフォンを持っていたりとかするわけですけれども、そんな中で、本の持つ魅力というのは、時間をかけて丁寧に自分の中で膨らませていく。心を育てる部分というのは、やはり読書かな。自分の中に落とし込んで、理解して、そういう豊かな時間をつくれるのは、やはり本ならではのかなと思うのですね。

もちろん、たくさんの情報を処理して、自分のものにしていく能力というのも当然必要なのですけれども、その一方で、人間として豊かな心を育てていく。そういう時間を持つ

きっかけ、入り口という部分は本であり、学校でいうと図書館であるのかなと思っております。ですから、やはり本は絶対大切。そういう時間を大事にしたいと思っています。

明和中学校統括校長

やはり読書活動の充実が重要なのは、自分の世界を広げるということだと思っています。自分の世界というのは、本当に自分の身の回りのことしかわからない、自分の頭の中で考えたことしかわからないですけれども、読書をすることで、知らない世界が広がる。そして知らない世界を知る。そして先人から学ぶ。ほかの人の気持ちがわかるようになる。どんなに苦しいことがあっても、読書をしていれば、ほかの世界を知ることで、遊ぶことができる。空想の世界にいざなわれることもある。そういったことで、読書活動を通して、人としての幅が広がる。それが人間の一生にとって、生涯にわたり、人間を成長させていく基盤になる。そのように考えています。だからこそ、読書活動を通して、生涯の楽しみを見つけさせたいなというふうに考えております。

以上です。

岡本委員

ありがとうございました。そういう本を私もつくっていかなければいけないなという気持ちを新たにいたしました。

続けて、指導室長に伺いたいのですが、先ほどの電子サービスですね。「S a g a s o k k a !」「Y o m o k k a !」のご説明をしていただいたのですが、これは1人1台端末で、子どもたちは自宅でも活用可能な仕組みなのかどうか。あと、電子書籍なので、学校図書館と「Y o m o k k a !」のほうですね、特に。自分の媒体で読めるものとの学校図書館との共存を、どう整理されているのか、お話をお聞かせください。

指導室長

では、まず1点目ですけれども、こちらはいつでもどこでも見られるというコンセプトで、自宅でももちろん見られますし、Wi-Fi等つながるところであれば見られるという仕様になってございます。

学校図書館との関連というのは、まさにこれは課題だなと思っております、結論からいうと、これから検証をしていかなければいけないものだと考えております。

もちろん学校図書館ですと、図書館指導員ですとか、先生方が目で見ても、これは子どもにとって有用だという本をしっかりと選書して、そして並べて、子どもたちが手にとりやすいようにしているという、もちろんそういったよさもありますし、デジタルですと、子ども自

身がこうやって見て、どれがいいかななんていうことを考えながら選んでいける。そういうよさもあると思っておりますので、そこら辺のところの関連を、これからまさに検証していきながら、今後どのように進めていくかということを考えていきたいと考えております。

以上です。

村杉委員

遠藤先生、熊谷先生、ご丁寧にご説明いただきまして、本当にありがとうございます。いろいろ工夫された取組をされていらっしゃることを伺いまして、また地域のボランティアの方も関わっていらっしゃるということで、大変感心いたしました。

少し具体的なことですが、学校図書館の指導員の方、1日に6時間いらしているということでしたが、大体時間帯は何時から何時くらいの時間帯でいらしているのか、教えていただけますでしょうか。

啓明小学校校長

小学校ですけれども、授業の中で図書の時間というのがありますので、そういうときは担任だけではなくて、学校図書館指導員も一緒に指導に当たります。ですから、授業のある時間帯とちょうど勤務時間が重なっております。授業と授業の間の中休みや昼休みは、子どもたちが図書館に行きますので、そういうときの対応も学校図書館指導員が行っております。子どもたちのいる時間帯です。

明和中学校統括校長

中学校は基本的に9時半からお願いしています。不登校生徒もおりますので、今年から巡回で、不登校の加配教員がつかまりましたので、別室で指導しているのですけれども、その中で、なかなか地域の図書館にも行けないという子どももいます。そうした子どもたちにも学校図書館は開いていますので、9時半からいらしていただいて、一緒に本を探したりですとか、図書館の使い方等を教えていただいたりしています。

また、お昼時間は、子どもたちが集まってくるけれども、午後の時間も、実は部活動で、いわゆる文化継承部というのがございまして、一緒に本を探していただいたり、また本の読み聞かせをお互いに、小学生・幼稚園にするための練習をしたりということで行っていますので、原則9時半スタートで行っているところです。

村杉委員

それから、明和中学校では、朝の読書活動を10分間、火曜日から金曜日にされていると

いうお話でしたが、啓明小学校では、週に何回かそういう機会は設けていらっしゃるのか、教えていただけますでしょうか。

啓明小学校校長

1週間、月・火・水・木・金のうち、まず月曜日は朝会があります。火曜日が読書の曜日です。水曜日が、今iPadの中に「ミライシード」といって、用意していただいたソフトがありますので、それで基礎学習ですね。主に計算とか漢字とか、そういうのを勉強する時間があります。木曜日は学年で使う時間で、そこで読書も可能です。金曜日は「東京ベーシック・ドリル」という算数の基礎学習をしておりますので、1週間、月・火・水・木・金の中で、火曜日は朝読書、あと、その週によっては木曜日にも読書と時間をとっております。

村杉委員

子どもたちが本に触れたり、タブレット端末に触れたりする機会が多くなるということで、今また、視力の問題ですとか、目の病気も多くなってきているという報告もありますので、ぜひ姿勢ですとか、本との距離ですとか、そのあたりのご指導もよろしく願いいたします。

平本教育長職務代理者

それでは、時間の兼ね合いもございますので、そろそろ協議を終了させていただきたいのですけれども、私からも一つだけ意見を述べさせていただきたいと思います。

本日遠藤校長、熊谷統括校長から、貴重な学校の読書活動のお話をいただきまして、本当にありがとうございました。

読書をすることだけが目的になるのではなくて、読書活動を通じて、子どもたち同士の関係性や、また子どもと先生方、そして地域の方々との豊かな関係性をつくることにも、読書活動が大変貢献しているなど感じました。

それだけではなく、私自身もとても本の虫だったのでよくわかるのですけれども、関係性の構築だけではなくて、自分自身について深く考えたり、あとは自分を知ったり、また、なりたい自分を発見したり、気づいたりすることにすごく重要な一つの手段が読書になっていると思いますので、ぜひ今後も生涯を通じて、読書と親しんでいけるような活動を進めていただければと思います。

では、まとめに入らせていただきます。

教育委員会では、事務局からの説明にもありましたが、令和5年5月に策定した第4次
中野区教育ビジョンに基づき、継続して子どもの読書活動の推進に努めております。本日

の啓明小学校、遠藤校長や明和中学校、熊谷統括校長からの説明で、学校での取組がおわかりいただけたかと思います。

本日、委員の皆様にご意見を踏まえながら、子どもたちに今後さらに読書に親しんでもらうための取組を進めていただきたいと思います。

それでは、本協議を終了いたします。

ここで会議を一旦休憩しまして、傍聴者の方々からもご意見を伺いたと思います。

それでは、会議を休憩いたします。

午前 11 時 00 分 休憩

午前 11 時 14 分 再開

平本教育長職務代理者

では、会議を再開いたします。

本日は傍聴をされているの方々からも様々なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。本日開催しました地域での教育委員会の狙いは、地域に住んでいるの方々や学校の方々と直接お話しする機会を得ることでもあります。地域の現状を知るためには、やはり具体的にお話を伺うことが必要であると思います。本日の会議は、大変に有意義なものとなりました。今後の教育行政に生かしていきたいと考えております。

最後に、事務局から次の開催について報告願います。

子ども・教育政策課長

次回の教育委員会でございますけれども、6月7日午前10時から、区役所の7階、教育委員会室で行います。

以上でございます。

平本教育長職務代理者

以上で本日の日程は全て終了しました。

これもちまして教育委員会第16回定例会を閉じます。

ありがとうございました。

午前 11 時 16 分閉会